

【生薬名】 山楂子、山楂肉 *CRATAEGI FRUCTUS*

【起源植物】 サンザシ *Crataegus cuneata*

【科名】 バラ科 *Rosaceae*



【別名】 赤爪木 (新修本草)

【薬用部分】 偽果、種子、果肉、種子を除去したものが山楂肉

【主成分】 フラボノール・ケルセチン、タンニン・クロゲン酸、フェノールカルボン酸・カフェ酸、トリテルペン・oleanol酸、VB2、VC、加チン

【薬性】 気味は酸甘微温、帰経は脾胃肝に属す

【効能】 ●消食化積・祛瘀行滞

●特に脂っこい食物・肉や脂肪の多い食物による消化不良に適す

●その他胃酸欠乏症、乳幼児の消化不良・食欲不振にもよい

●抗赤痢菌・収斂止瀉薬として下痢に使う

●健胃、整腸、消化促進に、1日5～8g煎服、分3

●二日酔い、食中毒に、1回8g

●魚鳥獣肉の消化を助け、二日酔いに煎服すると良い

●山楂子は脂物を食べた後にお茶代わりに飲むと良い

●山楂子は味が酸微甘でその薬性は平であり、皮が赤く肉は紅黄色なので、善く血分に入り、瘀血を化す要薬であり、瘀癍癥瘕を除き、婦女の月経閉、産後の瘀血で痛むものによい。また能く胃の酸汁を補い、飲食物の積聚を消化させ、特に肉食積滞を治すに効がある(張錫純)、山楂には2つの用途があり

①瘀血を化し、産後の瘀阻、月経不行に用い

②食を消し、消化不良、肉食積滞に用いる

【出典】 ●

【備考】 ●呑酸・吐酸などの胃酸過や胃潰瘍には使わない方がよい

●

【処方例】 ●保和丸、消食散